

第9回宮代町総合計画審議会議事録

1 開催日時

令和2年5月29日（金）午後7時00分～午後9時00分

2 開催場所

役場2階202会議室

3 出席者

（委員）

折原正英委員、吉澤久美子委員、並木誠委員、秋山高善委員、佐々木敦子委員、
佐々木誠会長、保科寧子委員、高津絵里委員、八木橋孝雄委員、松山仁委員、難波悠委員、
鈴木和子委員

（欠席）

小林俊介委員

（事務局）

栗原企画財政課長、伊東副課長、榎本主幹、小川主査、立見主任

（関係課）

宮野副課長、高橋主査

（コンサル）

牧野氏、菊地氏

4 次第

1 開会

2 フォーラムの中止について

3 今後の流れについて（資料1）

4 パブリックコメントで提示する総合計画基本構想（案）について（資料2）

5 キャッチフレーズについて

6 その他

7 閉会

5 議事（要旨）

（１）開会

会長：前回３月から久々の開催となった。スケジュールも変更となっているので、そのあたりも含め、皆様のご意見をうかがいながら最終的に良い答申が出せればと思う。

（２）フォーラムの中止について

フォーラムの中止について、事務局より説明を行った。

（３）今後の流れについて

今後の流れについて、事務局より資料１を用いて説明が行われた。

（４）パブリックコメントで提示する総合計画基本構想（案）について

パブリックコメントで提示する総合計画基本構想（案）について、事務局より資料２を用いて説明が行われた。以下のような疑義及び意見があった。

佐々木会長 基本構想案について、多少は手を入れられるのか。基本的にこれでパブリックコメントに出すのか。

事務局 7月1日にホームページで公開し、各公共施設に冊子として置く予定である。広報の記事は締め切りが終わってしまったため、大きな修正は難しいが、多少の修正は可能である。

佐々木会長 3月までにこの場で意見交換をしており、概ねよいと思うが、改めて意見交換ができればと思う。ページごとにご意見を頂きたい。

折原委員 P5の「4. 構想と方針」の図で「未来を実現するための構想1～4」までの円が描いてあるが、P6以降の「構想1 宮代らしさを価値として高めていく」のような言葉はここに入れずにイメージとしてこの図を掲載しているということか。

事務局 入れると煩雑になるかと思ったが入れた方がよいか。

折原委員 方針は入れなくてもいいので、構想くらいは入れてはどうか。

高津委員 入れた方が親切ではないか。

佐々木会長 以前の歯車の図の際は構想の文言まで記載があった。この図だと確かに煩雑になるが、方針までであれば入るのではないか。

事務局 レイアウトについては工夫する。

佐々木会長 構想まで入れるようレイアウトを検討してほしい。

方針まで入った目次に近い一覧があるとわかりやすい。最終的に離れている方針であっても、横串として関連があることがわかるようなマトリックスのようなものができるのではないか。

難波委員 P5の図の中に「前期実行計画 2020-2025」「後期実行計画 2025-2030」と記載があるが、この読み解き方が少し難しいため不要かもしれない。

- 事務局 構想と方針が骨となるため、それに基づき何をやるかというのはもう少し小さな話になる。アクションプランを5年スパンで組み立てていくということを表している。
- 佐々木会長 レイアウトでうまく表現してほしい。入れるのであれば、説明がほしい感じもする。
- 松山委員 前回と同様にカラーの総合計画のダイジェスト版を作ると思うが、そうすればわかりやすくなるのではないか。
- 佐々木会長 「4. 構想と方針」という見出しが内容と合っているか。この図はどちらかといえば全体像であり、「方針の記載がない」という先ほどのような意見が出てしまうと思われるため、見出しを検討した方がよい。
- 八木橋委員 方針Aについて、「検討中の実行計画」のなかに、『「新しい村」魅力アッププランの策定』とあるが、この表現だと「農」の部分だけで終わってしまうことから、『「新しい村」及び周辺環境魅力アップ…』とするとよいのではないか。
- 事務局 里山についても担当課の方で検討中の実行計画の事業があるようだ。山崎山など平地林を含めた施策が今後入ってくると思う。
- 佐々木会長 実行計画については、10月以降に意見交換の機会がある。また、検討中の実行計画の前の例示のなかにそうしたニュアンスは含まれていて、検討中の案なので、今のご意見が反映できそうならご検討頂きたい。
- 折原委員 構想2と3を比較してみると、構想と方針にずれがあるように思う。構想2では、地域の公民館等を利用し地域力を高めるような記述があるが、それを具現化する方針は構想3の方針Gの方が、関連が深いような気がする。一方、「方針F 顔が見える地域経済をつくる」の方は、構想3の本文「民間企業が本業を通して地域貢献を行うという考え方が定着…」とあるため、方針FとGは交換してもよいのではないか。
- 秋山委員 そもそも一つの方針が一つの構想につながるということを前提としていないため、このように縦割とすることが本当は少し違う。縦割にしたことで違和感が生じたのではないか。
- 佐々木会長 それを表したのがP5の図で、方針が隣の構想にも接しているが、そこはもう少し強調したほうがよいと思う。
入れ替えるというより、秋山委員のご意見のようにきれいに分ける必要がないという考え方もある。
- 事務局 表現を考えたいと思う。
- 佐々木会長 「4. 構想と方針」のところで補足の説明を加えるとよいか。
- 事務局 左側のページに1～4までの構想を記述し、その枠に方針を入れるとよいかと思ったが、互いに関連しているため、理念的な構想を具現化するものを後に記載した方が説明しやすいと考えたが、表現に対して良いご意見があれば。
- 秋山委員 方針の右側に「構想1・2」と入れていくのはどうか。方針に対して

構想がいくつかつながっているのだが、この記載だとそれが反映されてこない。それならば、構想を先に出し、後ろにそれぞれの方針がどの構想につながっているのかを示すというやり方もあると思う。

吉澤委員 構想の方にも「関連方針○」のような記載があり、方針のほうにも「関連構想○」の記載があるように。

佐々木会長 例えば1枚に見だしだけが出ていて、片側に構想があり、方針と構想がどう関係しているかということがそれぞれ記述してあるようなレイアウトだとよい。

難波委員 せっかくこの図があるので、この図に構想と方針が付いているようなものが見開きで表現できないか。P6以降の構想と方針は見開きで分かれてしまっている所以他とのつながりがわかりにくい、構想の丸の部分が上にあり、その下に丸で方針が描かれ、他に関連している構想があれば書いておくなど、この図に部分的に焦点を当てたような形で見開きに落とし込んではどうか。

事務局 ナビゲーションアイコンのようなイメージか。

秋山委員 方針ひとつとっても、どの構想につながるかは人それぞれになってしまうところがある。書き方としては、「主に構想1・2」などとしておくとういのではないか。実行計画の際には入れ替わりの余地を残すとよい。

事務局 枠の中に整理すればするほど、他の構想にも関わるような気がして収集がつかない面もあった。最終的な印刷時には、イラストや写真を掲載し、体裁を整えることとする。事務局としては手描き風のイラストがよいと考えている。最大限伝わる努力をしたい。

佐々木会長 構想と方針との関係についての説明が「4. 構想と方針」の図のところに入るなど工夫されるとよい。

折原委員 「構想と方針は相互に関連しています」という一文を追加すればよいのではないか。

佐々木会長 事業で見ると重なっているものがあり、方針Jにも「新しい村」に関連する事業があり、いろいろなところで「新しい村」が出てくるが、一目でわかるものがあるとよい。

続いて構想4についてはいかがか。

折原委員 P13の「構想4 社会の変化に対応し行政…」とあるが、P16の図の中では「構想4 社会環境の変化に対応し、行政…」となっている。

事務局 「社会環境」が正しいため、P13を修正する。「、」については削除し、「構想4 社会環境の変化に対応し行政運営を変化させ続ける」とする。

八木橋委員 P4の未来像に「宮代らしさ」という文言が入っているが、P13の本文の最後も同様に「こうしたことを念頭に行政は宮代らしさを追求しつつ、変化し続けていく必要があります。」としてはどうか。

未来像以降、構想のどこにも「宮代らしさ」という文言が出てこない。次の方針Kの中に、「宮代らしさ検討委員会」「宮代らしさ推進委員会」

のようなものを実行計画に入れることで、周りが変化しても宮代らしさがどうあるべきか検討ができるのではないか。「宮代らしさ」を標榜しても最終的に横のつながりがない状態では意味がないため、庁内で話し合う場を設けることを入れてはどうか。

折原委員 P13「構想4 ……行政運営を変化させ続ける」という表現に違和感を覚える。変わらないといけないのか。

佐々木会長 社会が変化しなければ変えなくてもよいのか。

折原委員 「社会環境の変化に対応し弾力的な行政運営をする」などの表現の方がよいのではないか。

事務局 根本的な考え方のところになる。

佐々木会長 今の表現だと変化させ続けるのだという強い意思が感じられる。

事務局 今までも同じような内容のことは書いてあったが、追いついていかないということを見ると、聞きなじみのない言葉にはなるが、こうした表現にさせて頂いた。ありきたりの単語・言葉ではない方がよいという気持ちもあった。

松山委員 良い方向に変化するか、悪い方向に向かうかが見えてこないため、行政としては良い方向に変化させたいという想いを込めた言葉ということだと理解した。

八木橋委員 「宮代らしく」「宮代らしさの追求」ということを見失ってはいけない。そのためにどう変化するか。

佐々木会長 「させ続ける」という意思が入っている、当然良い方向に向かうことを意味しており、それが他の自治体ない宮代の前向きさだと思う。その上での宮代らしさになるが、文章のおさまりとしてどうかということもあるので事務局で検討して頂きたい。

P13 本文2行目に「NPOや市民グループ、民間企業…」とあり、行政だけでなく民間も含め公共的な役割があるのはとても良いと思うが、この表現だと各主体がバラバラに行っている印象を受けるため、「連携」というワードが入ると良いのではないか。

事務局 元々事業としてもそうした内容を意識しているため、表現を改変したい。

難波委員 下から3行目の「福祉健康」という文言があるが、「福祉」には健康や身体的なこと以外にも関わってくる。宮代町の行政組織としてこうした括りになっているのか。例えば、生活困窮者への対応も一般的には「福祉」の分野に含まれるのではないか。

保科委員 「健康保健」や「社会福祉」という表現がよいか。「医療」は入らなくてもよいのか。

事務局 当然入ると考える。

佐々木会長 福祉と健康を分ければそのエッセンスが入るか。

- 保科委員 「健康」は保健・医療・介護を、「福祉」は貧困などの社会福祉をイメージしている表現なのだと思う。「健康」を「保健・医療・介護」など別の言葉に置き換えるか。「社会福祉」では皆さんの心に響かないだろうか。
- 佐々木会長 一方で、行政的な言い方もあるので、これで網羅しているニュアンスになるのか。
- 松山委員 必ずしも全部網羅する必要はないのでは。
- 保科委員 「健康」を「保健・医療・介護」にして、「福祉」をなしにすると市民の関心が高いテーマが入ってくるのではないかな。
- 松山委員 「地域コミュニティ」の前に、「例えば」を入れればよいのではないかな。「例えば、地域コミュニティ、公共施設のあり方、定住促進など、一つの分野だけで…」とすれば、全ての内容を網羅する必要はなくなる。
- 事務局 事務局一任で修正させて頂きたい。
- 折原委員 構想4に関連して、今後職員は増やせない、人も減るなかで、行政運営や財政運営にはAIの活用が進むのではないかな。そうなるとどこかに「AI」についての文言を入れる必要があるのでは。
- 難波委員 前段の最後の方に入れるのがしっくりくるかな。
- 折原委員 さいたま市役所の保育所の入所決定事務を10数人でやっていたものが、AIの活用により1人で済むようになったという例がある。これからはそうした時代だと思う。
- 佐々木会長 後段のはじめになるかな。
- 事務局 「当たり前と思われていたことも、当たり前ではなくなってきました」のあたりかな。
- 秋山委員 コロナについて一言も言及しないのはどうか。また、本計画は10年計画であり2030年までの計画となると、SDGsについても少しは触れる必要があるのではないかな。それに対し町としてどう取り組んでいるのかということが入っていてもよいと感じた。
- 佐々木会長 どう取り組むかまでは記載しないにしても、それも視野に入っているということが「社会の変化への対応」である。
- 秋山委員 教育、環境も含め、非常に大事な問題であり一言くらいはあってもよい。
- 事務局 ご意見のように「AI」「SDGs」「アフターコロナ」などのキーワードは社会変化をよく表しているといえる。
- 秋山委員 ここでは、従来型の問題と新しい社会、そうしたものを見据えたいからこそその「変化」ということになる。確実に社会は変わっていくのが目に見えている。だからこそ宮代町としては変わっていくという意味を表せるとよい。
- 難波委員 後段の主眼としては「分野連携」のような内容が記載されている。今のご意見にあったように、社会環境の大きな変化があった時に、後段2行目の「新しいと思われた考えや仕組みは、…」の流れで公共サービス

の提供の方法のような表現が入ると、A I などについても触れられるのではないか。

佐々木会長 この場では共有できたとして、それをどう表現するかが重要。キーワードを例示するのは一つの手だと思うがいかがか。

難波委員 公共サービスに関連して、例えば学校についても今後学校に集まる必要がないという流れになっていくのだとすれば、公共サービスのあり方自体が大きく変わる。教育の提供の仕方が大きく変わることも考えられる。我々は今その先が想像できないが、同じ公共福祉を得るためのサービス手法のようなところが読み解ける表現だといふと考える。

佐々木会長 学校の建物が不要になる時代が来るかもしれないということを見越したような文言が入っていると、先見の明があるという印象になる。

秋山委員 そうなってくると笠原小のような容れ物はいらなくなってしまふので、宮代らしくなくなるという見方もある。他ではないものを提供できるのが宮代町であり、そうしたものを求めて宮代町に住む人もいるだろう。コロナ後だからこそ宮代町に住もうというものが打ち出せるのではないか。

佐々木会長 今後地方移住が増えるとも言われている。そうしたことを表現できれば。

保科委員 新しい生活様式と宮代らしさを融合していく方向という理解でよいのか。

難波委員 構想4は行政運営が主題になっているため、A I を使って町が便利になるという話と行政を改革するという話はまた別という気もする。

佐々木会長 ご意見のあったような内容を入れるとすれば構想1になるか。
あるいは「はじめに」のような部分に入れられるかご検討頂きたい。
方針Kに「官民対話の場」とあるが、対話だけでなく連携事業のようなニュアンスもほしい。

事務局 連携については、方針Iで触れている。

佐々木会長 方針Kの「官民対話の場」という表現だと行政は行政の枠の中でという印象を与える。もう少し殻を破って「事業連携」という踏み込んだ表現にしてもよいのではないか。

吉澤委員 「協働」という言葉がある。

佐々木会長 そうした表現をしている自治体もある。

事務局 行政の都合のよいときだけ「協働」を持ち出すと評判が悪い。

佐々木会長 ある市では協働を進めようとしているが必ずしもうまくいっていない。事業連携という表現についてご検討頂きたい。

広域連携については今後もっと叫ばれる時代が来ると思うので、どこかに表現として入れてほしい。

事務局 町としては消防、ごみ処理、斎場、職員研修、図書館の相互利用など、すでに広域連携には取り組んでいる面も多い。

- 難波委員 方針Kのタイトルについて、行政の枠を飛び出さない印象を受ける。社会課題の解決は自分たちだけではできないので他の人と連携しようというニュアンスだと思うので、それをどう表現するか。
- 佐々木会長 そのためには行政の枠を超える必要があり、その対象が民間だったり近隣の自治体だったりする。
- 難波委員 単純に縦を横にするという話ではない。

(5) キャッチフレーズについて

キャッチフレーズについて、事務局より資料3を用いて説明が行われた。以下のような疑義及び意見があった。

- 佐々木会長 キャッチフレーズはパブリックコメント用の資料には載せるか。
- 事務局 パブリックコメント用の資料には載せる予定であるため、できれば決定したい。決まらなければ方向性だけでも頂きたい。
- 佐々木会長 ここで決めるか、方向性を示して町長に一任するか。
- 事務局 前回はいくつか案を絞り、町長に一任した。
- 佐々木会長 審議会であるので答申という形で出せる立場なので委ねなくてもよいがいかがか。前回の非公式のオンライン会議においても協議している。
- 保科委員 オンライン会議にも出席したが、住民一人ひとりを大切にしていこうという流れだった。キーワードもそういうものが多く、どんな人でも活躍できる宮代町のよいところを出していこうという事だったと思い返している。キャッチフレーズの候補を見ると、「3万4千人が物語をつむぐ町」が一番、一人ひとりを大切にしたいという考えを表しているという印象を受けた。
- 高津委員 資料を見ていた時に、小3の子どもが「宮代町は小さいけど、中身は大きい」と言っていて、その言葉を聞いた時に宮代らしいと感じた。宮代は規模が小さいし町であるが、今後人やモノのつながりはより大きくなると思うので、一人ひとりに焦点が当たったようなキャッチフレーズの方が、コロナで疲れてしまった気持ちも癒やされる。宮代ってこんなに親切で優しいということが伝われば、新たに移住を考えている人には目にとまるのではないか。
- 並木委員 一貫して「シンプル イズ ベスト」だと思っていて、候補の中では「ヒト・モノ・コト 共感がつなぐまち」がよいのではないか。「ヒト」も宮代らしさのひとつであり、町内にはいろいろな「モノ」がある、これから重要となる「コト」、10年後の未来も見えてくるワードが入っているため、光るものがあると感じた。
- 鈴木委員 資料3のP2以降、キャッチフレーズは違うが、写真と本文は同じものが入っている。実際にこうした形になるのか。
- 事務局 キャッチフレーズが決定するといろいろな印刷物等で使用される。こ

の本文は審議会の皆様で検討して頂いたものなので、タイトルをどうするかご意見を頂きたい。

鈴木委員 文字だけで見るよりも、写真があってタイトルが入ると印象が違ってくる。この候補のなかでは「つむぐ」「つなぐ」という言葉が入ると、町民である私たち一人ひとりが文化を創り出すことに参加できるのだというイメージができる。候補の中では、「3万4千人が物語をつむぐ町」「ヒト・モノ・コト 共感がつなぐまち」がよいと思う。

佐々木委員 宮代の一人ひとりが地域で活動する、発言するがイメージできるものがよいと考えている。また、キャッチフレーズは短い方がしっくりくるので、「地元が愛されるまち」がよいのではないかと。皆がここでゆっくり生活して、宮代でよかったと思えることがこれにつながってくると思う。

折原委員 宮代を外から見た時にわからないといけない。「首都圏でいちばん人が輝く町」はわかりやすさがあるのではないかと。

松山委員 町が一体感を持って官民が協力してがんばっていきたいというのが今回の狙いだと思う。対外的な周知というよりも、町の計画であり将来像なので、自分たちの10年後を皆で盛り上げていきたいということの方が大事だと思う。

八木橋委員 総合計画の対象は誰か。

佐々木会長 対象は町民、行政であり、外からどういう町かを知る一つの機会でもある。

八木橋委員 「3万4千人が物語をつむぐ町」は、外から入りにくい印象を受ける。先日新聞に、宮代町に移住した一番の理由は、「豊かな自然があるところ」が圧倒的に多いと掲載されていた。そうすると「ヒト・モノ・コト 共感がつなぐまち」には、自然やゆとりなど生活の中での癒やしが見えてこない。「ここにしかない物語の（あるいは「が」）あるまち」であれば、外から見た時にここでは自分たちが描く何かを得られるかなと夢を持って入ってこられるような気がした。

吉澤委員 10年後こうなっていてほしいというものが一番わかりやすいため「首都圏でいちばん人が輝く町」がよいと感じた。「人（ヒト）」という字が入ってほしいという気もする。「ここにしかない物語のあるまち」もロマンティックでよいが、具体的なイメージがわかりにくい。

難波委員 「自然」というワードが入ってこないことは想定外だった。「つむぐ」「つなぐ」「輝ける」など、主体的な言葉が入るのがよいと考えていて、主体は町民や企業になるのだが、「物語のある」よりは「物語をつくる」の方がいいのではないかと。

秋山委員 候補の中では「首都圏でいちばん人が輝く町」がよいと考えていて、検証しやすいのではと思った。検証の方法は、住民意識調査で「宮代町に住んでよかったか。」という設問を設定し、住んでよかった割合をいかに上げるか。それが施策の指標にもつながると思う。

おそらく「地元が愛されるまち」については、宮代にはすでに町を愛している人がたくさんいて、そのコミュニティにどうぞ入ってきてくださいというメッセージが出せるとよいと思う。

佐々木会長 何の情報もなくキャッチフレーズを見たときに宮代らしさが出ているのは「3万4千人が物語をつむぐ町」だと思う。ご意見をまとめると「住民一人ひとりが大切である」という点で「人（ヒト）」、「見た目は小さいけど、中身は大きい」、シンプルイズベスト、主体的な言葉が宮代らしいというものであった。この中から、意見で出されたニュアンスとキーワードを踏まえ、課内で調整して頂くのがよいと思う。

事務局 町長に選んでもらうという方法もあると思う。

佐々木会長 町長には会議にご参加頂いていないため、ニュアンスを含んだ上での候補について事務局で案を作成し、委員の皆さんに見て頂いてから町長にお諮りするのはいかがでしょうか。委員からの意見はメールまたは郵送でよい。

事務局 今回のご意見を踏まえ、修正したものを作成し、来週中にでも皆様に見て頂けるようにしたい。

佐々木会長 「ここにしかない夢を語れる町」は外して、あとの候補の「てにをは」を主体的・能動的に変えるなどすればよいと思う。

(6) その他

事務局より、6月の会議は開催せず、修正したキャッチフレーズをメール等で照会し、その意見を踏まえキャッチフレーズを決定した上で、7月のパブリックコメントを実施、次回会議（最終回）は7月30日（木）に開催することの周知が行われた。（コロナ関連の動向を注視しながら臨機応変に対応）委員より以下のような疑義及び意見があった。

佐々木会長 パブリックコメントは通常のとおり実施か。

事務局 こういった時代なので、原稿のPDFだけではなく、動画やご審議頂いている様子の写真なども紹介したいと考えている。

佐々木会長 どういう人が関わっているかわかるような写真などはないか。

事務局 ワークショップなどの様子も紹介していきたい。

佐々木会長 パブリックコメントを通して、次の総合計画の存在を知ってほしいという狙いもある。多くのパブリックコメントを頂けるように、身近な方にもお話頂きたい。

(7) 閉会

以上